
ジャンヌダルクは龍と舞う

守護神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャンヌダルクは龍と舞う

【Nコード】

N1745R

【作者名】

守護神

【あらすじ】

魔物^{テオ}が棲む世界のテオと戦う戦士^{ウォーザー}を育てる場所、クライシス学園で出会った2人がテオと戦う話

零章 始（前書き）

小説を書くのは初めてなので文や日本語がおかしいところや、誤字脱字が多々あるかもしれません。
そのときはご指摘ください。

ストーリーは今頭の中に浮かんでいるだけなので途中で変更するかも知れません。

零章 始

光には夢があつた。

”この世界を守る”という夢が。

闇には夢がなかった。

毎日が”死”と隣り合わせで絶望に満ちていた。

光はとても眩しかった。

どんなものをも光に包むかのように眩しかった。
ただどこか暗かった。

眩しい光のはずなのに・・・

闇は酷く黒かった。

それは光をも飲み込んでしまいそうなほどに。
しかしなぜか楽しそうだった。

酷く黒いはずなのに・・・

光と闇が交わることはない。

だがその光と闇は交わった。

でも闇が光に包まれたわけではない。

光が闇に飲み込まれたわけでもない。

光と闇は踊っていた。

竜とともに踊っていた。

光と闇が交わったとき、

ジャンヌダルクは龍と舞う。

一章 会

黒い髪をなびかせながら俺は剣を持って走っていた。

向かう先には2メートルと20センチほどの鋭い爪を持ったゴツゴツしたゴリラのような生物がいた。2人の距離が3メートルほどになった時、その生物は大きな右腕を振り上げてすごい勢いで俺に向かって振り下ろしてきた。剣で受けようかと思ったがなんせ相手は馬鹿でかい。きつとそのパワーも相当なもので、剣で受けたら力負けしてしまうだろう。と、判断した俺は思いつきり左前に跳んだ。

間一髪で相手の右腕の下を潜って背後に回った俺は両足で踏ん張って少し砂埃を巻き上げつつブレーキをかけて振り返った。

相手の右腕はさっきまで俺がいた場所に振り下ろされ、音を立てて土の地面をえぐっていた。剣で受けてたらやばかったな、と思いつつ俺は相手の首もとに剣を突き刺した。

「そこまで！今日の訓練は終了とする。」

俺が訓練用の擬似^{テオ}魔物の頭と体を切断したとほぼ同時に中年の男がそう叫んだ。

俺は持っていた剣をおろして深く深呼吸をした。

今日も酷く疲れた。そして死にかけた。だがもうそんなことにすら慣れてしまった。

剣を担ぎ、俺はいつもと同じように寮へと帰っていった。

背後では先ほど切った擬似魔物の硬そうな皮膚に覆われた体と頭がポリゴンになって消えていった・・・

この世界にはテオと呼ばれる魔物がいる。

当然テオは食べ物を食べる。その食べ物は主に人間だ。

テオは何十、もしかしたら何百かもしれないほどの種類がいて、それぞれ差はあるが多分全てが普通の人間よりも強いだろう。何もしなければ人間はただ食われるだけだ。

だが人間は頭が良い。兵器や戦士を作り上げテオと戦った。いや、戦っている。

今俺がいるこの施設はテオと戦う戦士を育てる場所、クライシス学園だ。
ウォーザー

俺が寮について自分の住んでいるの部屋のドアを開けると

「お帰り、ダルク。」と銀色の髪の少年が剣を磨きながら声をかけた。

こいつは俺と同じ部屋に住むジャンヌ・ブライトネス・セピアというやつで、俺と同じ剣士だ。

だがこいつの剣は全長2メートルを超えるほどでかい。なのにジャンヌの体は細い。

俺は最近こいつが実は人間ではなくロボットか何かじゃないかと疑い始めている。そうじゃなきゃこんな体でこんな剣を振り回すなんて不可能だ。あとジャンヌは男の俺が言うのもなんだが凄く美しいのだ。凛々しい眉の下にどこか怪しげなグレーの瞳、スツとした鼻の下に薄い唇。考えれば考えるほどこいつが人間から離れていくのもう考えるのをやめた。

ちなみにこいつは俺のペアでもある。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1745r/>

ジャンルダルクは龍と舞う

2011年10月8日19時12分発行